



Version Editor

© 2026 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2026年1月8日

目次

Version Editor	5
Version Editor でジョブを開く	5
Version Editor ウィンドウ	5
バージョン操作	7
バージョンの作成	7
ダイライン	8

Version Editor

Version Editor では、レイヤー、スポットカラー、ダイを表示し、ジョブのバージョンを作成できます。Version Editor は、ジョブからスポットカラーまたはレイヤーの設定を抽出し、バージョンの追加、編集、保存または削除を行うことができるジョブを開きます。また、異なるスポットカラーやレイヤーを選択し、それらをダイラインとして定義することもできます。

Version Editor では、次のジョブタイプがサポートされています。

- PDF
 - Fiery Impose Plus によって作成された統合面付け PDF
- メモ：**アクティベートされた Fiery Impose Plus ライセンスが必要です。詳細は、『Fiery Impose Plus のヘルプ』を参照してください。
- PDF バージョン対応
 - ダイ設定

Version Editor でジョブを開く

スプールされたジョブまたは JDF ジョブを Version Editor 内で開くことができます。

Fiery サーバーに応じて、Version Editor は 2 つのオプションのいずれかを使用して開くことができます。特定のオプションで Version Editor を開く方法については、Fiery サーバーに付属の書類を参照してください。

- 1 アクションに **Version Editor** オプションが表示された場合、またはメニューを右クリックして、「**Version Editor**」を選択します。
- 2 アクションまたは右クリックメニューにプレビュー オプションのみが表示された場合、**プレビュー**を選択します。

ジョブが **Fiery Preview** ウィンドウに表示されます。左側のウィンドウにはジョブ表示のサムネイル、メイン ウィンドウには選択したページが表示されます。

Fiery Preview ウィンドウの右上角にある **Version Editor** ボタンが使用できます。

メモ：**Version Editor** はジョブタイプに依存します。詳細については、[Version Editor \(5 ページ\)](#) を参照してください。

- 3 **Version Editor** ボタンをクリックします。

Version Editor ウィンドウ

Version Editor では、レイヤー、スポットカラー、ダイを表示し、ジョブのバージョンを作成できます。Version Editor は、ジョブからスポットカラーまたはレイヤーの設定を抽出し、バージョンの追加、編集、保存または

削除を行うことができるジョブを開きます。また、異なるスポットカラーやレイヤーを選択し、それらをダイラインとして定義することもできます。

次のアイコンとコントロールは、**Version Editor** ウィンドウに含まれています。

- ポインター（矢印）：ページを選択します。
- パンツール（ハンド）：ウィンドウの中でジョブを移動します。
- ズームツール（拡大鏡）：ズームイン/ズームアウトを行います。
- ウィンドウの右端にあるスクロールバー。
- ウィンドウ下部のページ番号ナビゲーション。
- **高さに合わせる、幅に合わせる、ウィンドウ右下角の「ウィンドウサイズに合わせる」の表示オプション。**
- ウィンドウの右下角にある拡大表示コントロールスライダー。
- **バージョン**：保存済みバージョンのドロップダウンメニュー。
- 保存アイコン：現在のバージョンを保存します。
- 追加アイコン（プラス記号）：新しいバージョンを作成できます。現在のバージョンを上書きするか、新しいバージョンを保存するかを選択できます。
- 削除アイコン：バージョンフィールドに表示されているバージョンを削除します。
- **スポットカラータブ**：元のジョブのすべてのスポットカラーを表示します。
- **レイヤータブ**：元のジョブのレイヤーをすべて表示します。
- **ダイラインを選択**（鉛筆アイコン）：ジョブのダイラインを選択します。XMP データ（ジョブで使用可能な場合）、スポットカラーまたはレイヤーをダイラインに使用することができます。

Fiery server でダイライン機能がサポートされており、スポットカラーがダイラインとして定義されている場合、**Version Editor** ウィンドウに次のアイコンが表示されます。

- **ダイライブラリに追加**（プラス記号の付いた矢印）：ダイラインをダイライブラリに追加します。

メモ：ダイライブラリにはスポットカラーのみを追加できます。ダイライブラリにレイヤーを追加することはできません。

- **ダイラインエリアの目のアイコン**：ダイラインのプレビューを表示または非表示にします。クリックして変更します。
- アイコンの削除（マイナス記号）：ダイラインを削除します。

Version Editor でジョブを操作すると、**Fiery Preview** ウィンドウに次の Version Editor コントロールが表示されます。

- **ダイライン（目のアイコン）**：ジョブのダイラインのプレビューを表示または非表示にします。ダイラインには、XMP（Extensible Metadata Platform）データも含めることができます。
- **エクスポート**：選択されたバージョンをジョブとして Fiery Command WorkStation 待機リストにエクスポートします。複数のバージョンが保存されている場合、**バージョンを待機キューにエクスポート** ダイアログボックスですべてのバージョンを選択できます。バージョンは、待機リストに別のジョブとしてエクスポートされます。

メモ：エクスポートアイコンは、**Version Editor** ウィンドウの右上角にあります。新しいバージョンのジョブを作成して保存した場合にのみ、アイコンは **Version Editor** と **Fiery Preview** ウィンドウの両方に表示されます。

バージョン操作

ジョブは、異なるバージョンとして Fiery server に送信できます。バージョンは Fiery server で 1 つのジョブから作成することもできます。Version Editor を使用して、ジョブのバージョンを作成できます。プレスオペレーターは、各バージョンを個別のジョブとして識別し取り扱います。

ジョブが処理および印刷された後に、同じジョブの異なるバージョンで同じ仕上げ方法を使用することができます。この種の前処理ワークフローでは、プリプレスオペレーターは各ファイルに存在する異なるバージョンを識別し、各バージョンのチケットが正しく発行されるようにして、それらのバージョンを異なるジョブとしてジョブ一覧に表示する必要があります。

ジョブのバージョンを作成するには、まずレイヤーまたはスポットカラーを組み込んだファイルが必要です。レイヤーまたはスポットカラーにダイを含むことができます。レイヤーまたはスポットカラーからダイを追加することができます。

ファイルが包装紙やラベルなどのフラットな印刷物の場合は、バージョンを保存する前に面付けを行っておく必要があります。そうすれば、ステップアンドリピート方式のレイアウトをバージョン操作のために開いたときに、印刷準備ができています。

バージョンの作成

元のファイルにスポットカラーまたはレイヤーが組み込まれている場合は、ジョブのバージョンを作成できます。ジョブがフラットな印刷物またはブックレットの場合は、事前に面付けされている必要があります。ジョブは Fiery Command WorkStation 待機リストにインポートされます。

1 アクションまたは右クリックメニューに **Version Editor** オプションが表示された場合、**Version Editor** を選択します。

2 アクションまたは右クリックメニューに **プレビュー**オプションのみが表示された場合、**プレビュー**を選択します。

ジョブが **Fiery Preview** ウィンドウに表示されます。左側ウィンドウにはジョブ表示のサムネイル、メイン ウィンドウには選択したページが表示されます。

3 Fiery Preview ウィンドウの右上角にある **Version Editor** アイコンをクリックします。

ジョブが **Version Editor** ウィンドウで開きます。

4 スポットカラータブまたは**レイヤータブ**をクリックします。

5 スポットカラーまたはレイヤーをプレビューするチェックボックスを選択またはクリアします。

6 バージョンを作成するには、スポットカラーまたはレイヤーを選択し、**追加**（プラス記号）アイコンをクリックします。

7 バージョン名を入力 ウィンドウでバージョンの名前を入力し、**OK**をクリックします。

このファイルのバージョンを **Version Editor** で作成したことがある場合は、ウィンドウが開き、これを現在のバージョンとして保存するかどうかの確認が表示されます。**はい、現在のバージョンを上書きしますか、いいえ、新しいバージョンを作成します**のどちらかを選択します。

8 作成したバージョンを印刷するには、**エクスポート**アイコンをクリックします。

9 待機キューへバージョンをエクスポートダイアログボックスで、印刷するバージョンを選択し、OKをクリックします。複数のバージョンが保存されている場合は、待機キューへバージョンをエクスポートウィンドウでバージョンを選択できます。バージョンは、待機リストに別のジョブとしてエクスポートされます。

メモ：エクスポートしたバージョンは、Fiery ImageViewer を使用して処理およびプレビューすることができます。

10 Fiery Command WorkStation で、ジョブを選択し、ジョブのプロパティを指定できます。

11 この時点でバージョンを印刷しない場合は、Version Editor ウィンドウを閉じます。

バージョンはジョブの一部として保存されます。ユーザーは後でジョブのエクスポートおよび印刷を選択することができます。

メモ：バージョンが新規ジョブとしてエクスポートされない場合は、バージョン編集を適用せずに、インポートした元のファイルが印刷されます。

ダイライン

ダイラインは、最終的な梱包製品の作成に使用される梱包材の輪郭やレイアウトを表します。ダイラインはさまざまなマーケットで使用されていますが、主に折り畳み式包装箱や段ボール梱包で使用されています。ダイラインに基づいてコンテンツが作成され、ジョブの形式でプリプレスオペレーターに送信されます。

ダイ印刷機能は、入力ファイルをサポートしており、ダイライン指示が 1 セットのみ含まれます。入力ファイルには、2 つのダイライン情報を含めることができます。たとえば、外面と内面の両方に印刷する必要がある折りカートンなどの場合です。ダイライン情報が 2 セット含まれる入力ファイルの場合、次の手順を実行します。

- 2 番目のセットのダイライン情報を削除します。これは通常、内面用のミラーダイライン情報です。
- 無線とじではないプレスの場合、入力ファイルは、対応するダイライン情報が含まれる、外面（おもて）と内面（裏）の 2 つの個別ファイルになります。別のプレスで各面が処理され、印刷されるので、ダイラインを両面に印刷できます。

ダイラインを手動で定義する

ジョブは、ダイラインとして定義できるスポットカラーまたはレイヤーを持つことができます。ダイラインを手動で定義するには、次の操作を行います。

- 1 アクションまたは右クリックメニューに Version Editor オプションが表示された場合、Version Editor を選択します。
- 2 アクションまたは右クリックメニューに プレビュー オプションのみが表示された場合、プレビューを選択します。
- 3 Fiery Preview ウィンドウの右上角にある Version Editor アイコンをクリックします。
- 4 Version Editor ウィンドウで、**スポットカラー** または **レイヤー** タブをクリックします。
イメージで使用可能なスポットカラーおよびレイヤーの一覧が、それぞれのタブに表示されます。
- 5 ダイラインとして定義するスポットカラーまたはレイヤーを選択します。

メモ：スポットカラーかレイヤーのどちらかをダイラインとして選択できます。両方を選択することはできません。

- 6 ダイラインセクションで、**ダイラインを選択**（鉛筆アイコン）をクリックします。
- 7 ダイラインとして使用するスポットカラーまたはレイヤーを選択します。OKをクリックします。
選択したスポットカラーまたはレイヤーが**ダイラインセクション**に一覧表示されます。
- 8 ダイラインセクションに一覧表示されたダイラインで、次の操作を行うことができます。
 - ダイラインを削除するには、**除去**アイコン（マイナス記号）をクリックします。
 - ダイラインのプレビューを表示または非表示にするには、**目の**アイコンをクリックします。クリックして変更します。
 - スpottカラーがダイラインとして定義されている場合、そのダイラインをダイライブラリに追加するには、**ダイライブラリに追加**アイコン（プラス記号）をクリックします。ダイライブラリには、使用可能なデフォルトのダイラインを保存することができます。
- メモ：ダイラインとして定義されているレイヤーをダイライブラリに追加することはできません。
- 9 **待機**リストからジョブを選択します。右クリックし、**処理後待機**を選択します。
ジョブが処理されたら、ジョブを Fiery ImageViewer で開いて、生成された 3 つのサーフェスを表示することができます。コンテンツ、ダイ+コンテンツ、ダイの 3 つのサーフェスです。

自動ダイ検出

Fiery server は 3 種類の自動ダイ検出をサポートしています。サポートされる 3 種類の自動ダイ検出：

- 1 スpottダイライブラリ：ユーザーは、よく使用するスポットカラーをダイラインとして保存し、そのダイラインをダイライブラリに追加できます。Fiery server はダイライブラリ内のダイラインを自動的に検出するので、ジョブの処理時には印刷する準備ができます。この自動検出を有効にするには、**ジョブのプロパティ > ジョブ情報**で**サーバーのダイライブラリを使用して上書き**オプションをオンにする必要があります。
- 2 ESKO XMP テクニカルインクサポート：ESKO（サードパーティ製品）のワークフローが開発されました。Esko ソフトウェアでは、ワークフローでメタデータとして XMP を使用します。使用するインクに関する情報は Ink Manager アプリケーションで定義されています。ユーザーは、共通のスポットカラーを使用する代わりにテクニカルインクとして、Esko ワークフローにダイを定義できます。Ink Manager アプリケーションの使用について詳しくは、『Esko 製品マニュアル』を参照してください。
- 3 ESKO Automation Engine 送信：Fiery server にジョブを送信する前に、ESKO Automation Engine 内でダイ検出が行われます。現在、Esko ワークフローでは、印刷時のサーフェスとして、ダイ（のみ）とコンテンツ（のみ）の 2 つをサポートしています。ダイ+コンテンツのサーフェスはサポートされていません。

Esko Automation Engine で PDF が受信されると、ダイサーフェスとコンテンツサーフェスは自動的に分解されて 2 つの PDF が作成されます。N-up のレイアウト設定が作成され、ダイ設定にマッピングされます。Esko Automation Engine 内で N-up 面付けが行われます。JDF.zip 出力が Fiery server に送信されます。Fiery server は、ジョブを 2 つの PDF（ダイとコンテンツ）の JDF アーカイブとして認識します。ダイライン印刷のジョブのプロパティ設定が自動的に適用されます。ユーザーはこれらの設定を変更できます。ジョブの処理時にユーザーはジョブを Fiery ImageViewer で開いて、生成されたサーフェスを表示することができます。

ジョブの状況、仕上げ、削除、中断などのジョブ情報は、Esko Automation Engine に送り返されます。

ダイラインを自動的に検出する

スポットカラーが自動的にダイラインとして認識されるように定義することができます。それには、ダイラインをダイライブラリに追加します。ダイライブラリへのダイラインの追加については、[ダイラインを手動で定義する](#)（8 ページ）を参照してください。

ダイラインがダイライブラリに追加されると、Fiery server がそのダイラインを自動的に検出し、ジョブを処理して印刷する準備ができます。自動検出を使用すれば、Version Editor を開いてジョブごとにダイラインを手動で定義する必要はありません。

1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- ジョブをダブルクリックします。
- ジョブを右クリックして**プロパティ**を選択します。
- ジョブセンターツールバーの**プロパティ**アイコンをクリックします。
- アクションメニューから**プロパティ**をクリックします。

2 ジョブの**プロパティ**で**ジョブ情報**アイコンをクリックします。

3 **ダイ印刷**セクションで**サーバーのダイライブラリを使用して上書き**チェックボックスを選択します。

4 必要に応じて、他の設定を選択します。

5 **処理後待機**をクリックします。

ジョブが処理され、3つのサーフェス（コンテンツ、ダイ+コンテンツ、ダイ）が自動的に生成されます。

ジョブを Fiery ImageViewer で開いて、それぞれのサーフェスを表示することができます。

ダイラインへの XMP データの使用

ジョブには、XMP（Extensible Metadata Platform）データを埋め込むことができます。XMP データを埋め込んだジョブが Fiery server にインポートされる場合、その XMP データはジョブの一部として保持されます。

1 アクションまたは右クリックメニューに**Version Editor**オプションが表示された場合、**Version Editor**を選択します。

2 アクションまたは右クリックメニューに**プレビュー**オプションのみが表示された場合、**プレビュー**を選択します。

ジョブが**Fiery Preview** ウィンドウに表示されます。左側ウィンドウにはジョブ表示のサムネイル、メインウィンドウには選択したページが表示されます。

3 **Fiery Preview** ウィンドウの右上角にある**Version Editor**アイコンをクリックします。

4 **Version Editor** ウィンドウで、**スポットカラータブ**をクリックします。

イメージで使用可能なスポットカラーの一覧が、そのタブに表示されます。

5 ダイラインセクションで、**ダイラインを選択**（鉛筆アイコン）をクリックします。

6 **ダイラインを選択** ウィンドウで、**ダイラインに XMP データを使用**を選択します。**OK**をクリックします。

埋め込み XMP データを使用しているダイラインが**ダイライン**セクションに表示されます。

7 待機リストからジョブを選択します。右クリックし、**処理後待機**を選択します。

ジョブが処理されたら、ジョブを Fiery ImageViewer で開いて、生成された 3 つのサーフェスを表示することができます。コンテンツ、ダイ+コンテンツ、ダイの 3 つのサーフェスです。ダイ+コンテンツとダイの 2 種類のサーフェスは、XMP データを使用して生成されます。

ダイライン印刷オプション

ジョブのプロパティ > ジョブ情報で、**ジョブのダイライン設定を表示および適用することができます。**

次の設定が使用可能です。

設定	説明
サーバーのダイライブラリを使用して上書き	このチェックボックスを選択すると、ダイライブラリに保存されているダイラインを Fiery server で自動的に検出することができます。 メモ: ダイラインは最終製品のシートには印刷されません。
ダイラインを印刷	このチェックボックスを選択すると、ダイラインの印刷、およびこのセクションで一覧されているその他のダイライン印刷オプションが有効になります。
ダイラインの印刷時	ダイラインシートをジョブに適用できるタイミングを指定します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• ジョブ印刷前• ジョブ印刷後
ダイラインコンテンツ	ダイシートにダイラインコンテンツのみ含まれているか、ダイラインと印刷可能なコンテンツの両方が含まれているかを指定します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• ダイラインのみ• ダイラインとコンテンツ
ダイラインの印刷先(サポートされている場合)	ジョブの出力場所を指定します。必要な出力トレイをドロップダウンメニューから選択します。 メモ: このオプションは、複数の出力トレイ/出力順がプレスでサポートされている場合にのみ使用可能です。
ダイライン部数:	ダイライン付きで印刷する部数を指定できます。